

グループミーティング初日(9月13日)～若手農業者編～



草沢 正秀さん

ハウス8棟でトマトやその他の野菜を栽培しています。生鮮野菜の市場出荷は、価格が市場任せなので不安定です。加工して付加価値をつけるなど自分なりに考えていますが一人の力では難しく、情報交換できる場所があればいいと感じています。忙しいのでトマトと会話している時間のほうが多いです。



工藤 雅夫さん

深浦に来て3年目、大館のハウス4棟でトマトを栽培して2年目になります。周りに相談できる人がいるので助かっています。今、B級グルメが流行っているので、深浦産の農産物、例えば、じゃがいもや人参、トマトや深浦牛を詰め込んだカレーなどの開発に取り組むのもいいのではと考えています。



野呂 秀昭さん

水稻を60アール作付けし、農薬や肥料の実験をしています。深浦は南北に長く、各々の地域で事情も違うので、このような機会に情報交換できればいいと思います。



村山 勝彦さん

久田地区で水稻15ヘクタールを作付けしています。水路の状況が悪く、笹森堰が壊れれば米の作付けができなくなるといいます。水路の管理に労力が必要で、5年もすれば誰も米を作る人がいなくなるのではと不安を感じています。



大館のハウス5棟でイチゴとトマトを栽培しています。今年の夏は暑すぎて定植したイチゴの苗が弱ってしまい、葉が成長する前に花が咲きました。実も小さく、例年より規格外の量が多かったです。妻が手伝ってくれるので助かっています。



大沢 洋介さん

米を4ヘクタール、馬鈴薯を2ヘクタール、ネギを40アール栽培しています。特にネギの栽培に力を入れています。ハウスより露地栽培が向いていて、少しぐらい曲がっても自然に戻ります。茨城や千葉産が出始める時期を除き、価格もほぼ安定しています。



佐藤 真さん

大館のハウスで、トマトときゅうりの自然栽培をしています。自然栽培は、肥料や農薬を一切使わないので、大館ハウス団地で野菜を栽培している方々に迷惑がかけられないよう、場所の選定についても相談したいと思います。他と差別化した特色ある作物に対する需要があると考え、自然栽培に取り組んでいます。



新岡 一樹さん

米を14ヘクタール作付けしています。将来的には20ヘクタールにして息子にも手伝ってもらいたいと思いますが、新聞報道にあった米の仮渡金の価格を見ると、将来に不安を感じます。今年の苗作りは、野呂秀昭さんのアドバイスのおかげで経費を節約できました。こういった意見交換の場が普段からあればいいと思います。



長坂 俊成さん

ミニトマトほか、さまざま作っています。農業を始めて19年になります。ハウレンソウやトマトを手がけて失敗を繰り返してここまでできました。農業は定年もないレキビになることもありません。失敗したことが次につながるといいます。

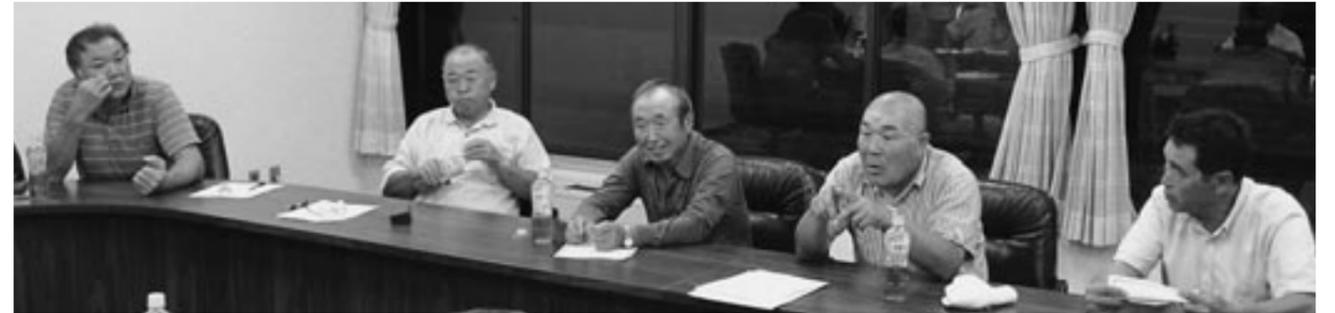


工藤 正和さん

5年後の深浦町農業を本気で考えよう

町づくりグループミーティング

町の将来や、住みよいまちづくりへの取り組みについて話し合う「町づくりグループミーティング」が、9月13日から3夜連続して行われました。今回は「5年後の深浦町農業を本気で考えよう！」をテーマに、若手農業者(9月13日)、ベテラン農業者(9月14日)、女性農業者(9月15日)の総勢19名が、自身の取り組みや農業を取り巻く課題などに加え、それぞれの立場から、深浦町農業の将来について語ってくれました。



- ◆開催日時 平成22年 9月13日(月)～15日(水) 各午後6時30分～午後8時30分
- ◆開催場所 役場2階 第1・2委員会室
- ◆参加者 <若手農業者(9月13日)>
村山勝彦さん、長坂俊成さん、工藤正和さん、工藤雅夫さん、大沢洋介さん、野呂秀昭さん、新岡一樹さん、佐藤真さん、草沢正秀さん
- <ベテラン農業者(9月14日)>
坂本正人さん、藤田一則さん、永谷勇一さん、松沢忠男さん、新岡重光さん
- <女性農業者(9月15日)>
神林陽子さん、中村聡子さん、新岡喜恵子さん、松沢てい子さん、小野秀子さん
- <町側> 吉田町長、農林水産課職員

グループミーティング3日目(9月15日)～女性農業者編～



小野 秀子さん

主に花を栽培しています。果物はイチジクを約30本、野菜はにんにくやトマトを栽培していて、かそせいか焼き村にも出しています。いか焼き村に出す際には多品種を品切れさせないように気をつけています。野菜を栽培していると規格に合わないものが3割程度あるので、加工することが大事だと感じています。



新岡喜恵子さん

私自身は、精米と苗づくりをしています。現在、息子が取り組んでいるきゅうりやトマト栽培の手伝いをしているのですが、知識やノウハウもなく戸惑っています。参考図書などを読んでも土のことなど到底わかりません。そういった指導やデータが欲しいと思っています。



神林 陽子さん

家庭菜園程度に、古代米とタカキビを栽培しています。先日参加したセミナーで、トレーニング農場の取り組みが紹介されていました。農業を始めて間もない方々を対象に、指導者が毎日トレーニング農場に来て技術を教えるんです。農業後継者対策として興味深く感じました。また、生産から加工、販売までを手掛ける農業の6次産業化が最近奨励されていますが、大切なのは販売先の確保だと思っています。

大館のハウス5棟でトマトを栽培しています。農業を始めて8年になりますが、何も分からなくても一生懸命取り組めばトマトも応えてくれます。5年後というより1年1年、健康な限り続けていきたいです。



中村 聡子さん



松沢てい子さん

大館ハウスでイチゴやパプリカ、トマトを、露地でジャガイモやサツマイモ、トウモロコシを栽培しています。地元商店でも扱ってもらっていますが、お互い野菜の種類や量について情報交換するなど、連携することが大切だと感じています。

深浦町農業について、3日間にわたって意見交換してまいりました。初日は若い農業者にたくさん参加いただき、新たな発見や喜びを感じるとともに、若い方々が必至に農業に取り組んでいることを心強く感じました。2日目は、深浦町の農業の方向性について議論が及びました。関係機関の連携や、農業者同士の情報交換の重要性を再認識しました。3日目は、自分のできる範囲で農業に取り組むことの楽しさを紹介していただき、女性の強さを印象づけられました。みなさんからさまざまなアイデアをいただき、有意義なグループミーティングとなりました。



吉田町長

グループミーティング2日目(9月14日)～ベテラン農業者編～



坂本 正人さん

昭和51年に法人形態にして34年になります。現在、ダイコン80ヘクタール、人参45ヘクタール、馬鈴薯を20ヘクタール、そのほか、こまごました作物を栽培しています。町全体の産業振興の中で、農業をどのようにしたいのか町として方向性を示すべきです。これからの農業を担っていく若者を行政や農協がバックアップしていく方策を考えて欲しいと思います。



藤田 一則さん

トマトを30アール、ハウス野菜が5アール、ハウス野菜が5アール、ネギを露地で60アール程度栽培しています。関東・関西市場向けの出荷となると、激しい産地間競争による市況の影響や、流通コスト・手数料などで、経営が厳しくなります。所得を上げるためには、自分で作ったものに値段をつけられるような方策、例えば自ら販路開拓をするなどの努力が必要だと思います。最近では地元スーパーなどで地場産品や規格外品コーナーが設けられるなど、かすかな希望を抱いています。

米を3.5ヘクタール、ハウスは6棟あります。深浦の若者達が私のような年寄りに負けたくないよう頑張ってもらいたいと思っています。



永谷 勇一さん

米を30ヘクタール作付けしています。市場や小売が求めているのは、栽培方法も含め、こだわりの作物です。町が計画している加工場も、農家と連携して付加価値を高める戦略と一緒に進めたいと思います。



新岡 重光さん

イチゴを4棟、パプリカ3棟、野菜1棟、露地ではトウモロコシやジャガイモを栽培しています。本格的に農業に取り組んで7年になります。大館ハウス団地で栽培できることは恵まれていると感じています。規模拡大はせずに、妻と2人で、できる範囲で頑張っていきたいと思っています。



松沢 忠男さん



町づくりグループミーティング募集

「町長とこんなことを話したい!」「町が取り組んでいることは?」など、普段なら言いづらいこと・聞きづらいことも、気心の知れた仲間との懇談の場であれば、何でも気さくに、活発な意見交換ができると思います。「うちに来て町づくりグループミーティングを開催してほしい!」という方は、ぜひお申し込みください。

【お問合せ・お申し込み】深浦町企画財政課 町づくり戦略室 TEL74-2111